

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300421		
法人名	有限会社 グループホームふるさとの家		
事業所名	グループホーム「城下」しまばら	ユニット名	
所在地	長崎県島原市新湊二丁目丙1740番地1		
自己評価作成日	2024年 8月 25日	評価結果市町村受理日	2024年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.nhmv.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topiesosyo_incl&true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2024年 9月 24日	評価確定日	2024年 10月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様やご家族様に安心していただけるよう、お一人、お一人の生活歴を全職員が、十分に把握し、その方に合った日常生活をしていただき、自由な時間を楽しく過ごして頂いています。毎月の活動としては、毎月8回の料理教室を行い、利用者様お一人、お一人に担当を持って頂き、「城下」農園のとれたての野菜を使用し、作って食べる喜びを感じて頂いております。またデッキでの大人の学校、食事会、お茶会など回数を増やし、お墓参りや商店街の散策、四季折々の行事を行い、利用者の笑顔の絶えない潤いのある生活支援をさせて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム「城下」しまばら”は開設から21年を迎えており、来訪者の方から「このデッキは良いですね」「家庭的で良いですね」などのお言葉をいただいている。法人内の放課後デイサービスの子ども達との交流もあり、楽しいひと時を過ごされており、地域の避難訓練や市民清掃に参加し、精霊船の立ち寄りでお参りすることもできた。日々の生活では、開設時に作られた「老いても障害を持って、当たり前に分らなく普通に暮らしたい」という理念を大切に、ご利用者の生活歴を覚えていただき、馴染みのアーケードの店舗にお連れしたり、家族と一緒に墓参りや法事などに外出されている。培ってこられた特技(編み物・花や花壇の手入れ・書道・電卓での計算・料理等)を日々発揮していただき、ホーム内で「大人の学校」も開催し、回想法を含めたクイズなどを楽しまれている。「100まで生きて、紅白饅頭を皆さんに配りたい」などの要望を話して下さる方もおられ、お彼岸には“おはぎ”を作り、職員のアイデアで皆様と一緒に“お抹茶”を立てるひと時もあり、ご本人と家族が喜ばれる取組みを続けている。ホームの職員自身、将来「入居したいホーム」となっており、今後も「ゆとり」を持った寄り添い(ケア)ができるよう、職員のストレスケアの軽減とともに、日々の段取りを理解した上での目配りと気配りを行い、更なるチーム力の強化に繋げていければと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓ 該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていない (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)		



自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を込めた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「老いても障害を持っても、当たり前に分らしく普通に暮らしたい」を基本理念とし毎朝朝礼時、唱和し、全職員が共有し実施している</p>	<p>ご利用者が理念を“書道筆”で書いてくださり、文化祭に出展することができた。ご利用者個々の生活歴や生活習慣を教えていただき、「自分らしく普通に暮らしたい」という理念の実践に繋げており、特技を活かして野菜作りや縫い物などをされる方もおられる。2024年度から「料理教室」を月8回行うようになり、昔ながらの料理を一緒に行い、「どがんこがん」と言いながら、楽しいひと時になっている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>コロナ感染症の状況を見ながら交流をしている</p>	<p>「当たり前に分らしく普通に」という理念には、「地域の中で」という思いを込めている。登校する子ども達と挨拶したり、道路向かいの方から切り花を頂き、プランターに苗を植えてくださり、ホームからも“おはぎ”や野菜等をお返ししている。自治会主催の精霊船にお線香をあげることもでき、市民清掃（年2回）には防災委員と管理者が参加し、車いすのご利用者も一緒に外庭のジュースボックスの空き缶を整理している。放課後デイサービスの子どもの交流もあり、メッセージカードをプレゼントして下さった。コロナ前は八幡神社のお神輿が来て下さり、地区の運動会や鬼火に参加していた。保育園児との楽しいひと時もあり、今後も交流方法を検討していく予定である。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>現在は行っていない</p>		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回会議を実施し、利用者様の状況や行事内容や取り組み内容を報告しご意見を頂き、サービス向上に生かしている	対面での通常開催であり、家族、地域の方々、地域包括職員、系列ホーム、宅者所、地域密着型デイ、放課後デイ等と一緒に会議をしている。「城下」しまばら新聞やご利用者の状況等をお渡しし、ホームの取り組みをご理解いただき、参加者の方々が地域行事や見守りネットワークなどを教えてください。欠席者の方には活動状況に対する感想（施設の雰囲気、活動の様子等）を書いていただく用紙を郵送しており、「皆さんの笑顔が良いですね」等の言葉もあり、嬉しく思っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、行政担当者も出席されるので、連絡事項や色々な情報を伝えてくださることで、協力関係を築けている。	代表や専務（事務長）が島原市を訪問し、情報交換している。介護保険の更新時は管理者が島原市に申請書を提出しており、その際に疑問点がある時は相談し、詳しく説明してくださっている。島原市GH連絡協議会の運営に代表が携わり、研修担当の役割を担っている。地域包括の職員とも空き状況等を情報交換し、運営推進会議で「SOSネットワーク」等の取り組みを教えてください。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、目標を決め、意見を出し合い、評価を出し、取り組んだり、法人内研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各施設（介護）の身体拘束廃止委員会を中心に、身体拘束廃止・虐待防止委員会（年6回）が行われており、今後も記録のあり方を検討予定である。「介護職員の接遇ポイント」「バイスティック7原則について」「事例検討」「高齢者虐待防止について」「アンガーマネジメント（怒りのコントロール）」等の勉強会もあり、2024年度の年間目標を職員で決めている。「心のゆとり五か条」も日々取り組み、職員個々の言動も振り返り、改善策の検討と実践に繋げている。コロナ以前は法人内の身体拘束廃止委員による施設訪問があり、ご利用者への聞き取りも行われていた。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会同様、委員会を設置し、委員会議や法人内研修又職員会議などで話し合い、注意を払うことで防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護の利用者様が入所されており必要なことなどは、行政担当者の方や、後見人の方に、お話を聞き理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表や管理者が相談時に詳しく説明を行い、理解、納得を得られるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会の際、お気づきになられたことや、ご意見、要望をお尋ねしている。また運営推進会議でもご家族代表の方が出席され、ご意見も述べられるので運営に反映させている。	運営推進会議に家族代表の方が参加してくださる。リビング外のデッキや居室で面会でき、電話連絡も続けている。「城下」しまばら新聞（2か月に1回）には写真をたくさん掲載し、手紙も一緒に郵送しており、写真と職員の手紙（毎月）も郵送し、日々の暮らしぶりを報告している。管理者が個別に家族とお話しする時間を作り、「お墓参りに連れていきたい」等の要望を伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人研修時、全職員に運営に関する実状を代表が話されたり、毎月の職員会議で個々の職員が意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	管理者は職員個々の意見を引き出すように努めている。会議の際も1人ずつ意見を伝えるようにしており、職員同士の助け合いもあり、良いチームとなっている。外出行事や“お抹茶を立てる”等のアイデアも豊富で、ご利用者と家族が喜んでもらえるようなケアを大切にしている。勤務希望（曜日・時間等）に応じた勤務調整を行い、日・祭日に出勤した人には手当をつけ、子育て中の職員が働きやすいよう勤務時間を調整している。	職員は介護職としてプロの仕事を続けており、チーム力の成果も見られている。今後も職員の小さなストレスを共有し、改善できる方法を検討していく予定であり、身体拘束廃止委員の施設訪問を再開して職員のストレス度合いを確認したり、同年代の方の意見交換会を企画するなど、職員のストレスケアに関する更なる検討を行う予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の差がある中で、生活環境に合った労働条件で雇用し、有識者には、手当を付けて下さる。また、日曜・祭日の出勤者にも手当を付けて下さる。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていく ことを進めている	コロナ感染症の状況を見ながら、法人外研 修参加の機会やWEBでの研修参加又法人 内研修参加の機会を設けて下さり勉強でき るよう取り組まれている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互 訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上さ せていく取り組みをしている	代表が他同業者との意見交流をされた。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、 本人の安心を確保するための関係づくりに努め ている	笑顔で挨拶したり、声掛けすることで安心 して頂き、日ごろの会話を傾聴することで 安心を確保できる関係づくりに努めている 。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困ってい ること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、関係づくりに努めている	面会時や電話連絡時など、必ず、何か困っ ておられることや、ご意見、要望などお尋 ねし、信頼関係の構築につとめている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が 「その時」まず必要としている支援を見極め、 他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族様より、よくご意見を聞き、 基本情報やアセスメントを行い、ケア 会議で必要とされている支援を見極め支援 に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いてい る	日ごろのコミュニケーションを通して、利 用者様は今どうしたいかをよく観察し、思 いやりを持ち、支援することで共に過ごし 支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いやご意見をしっかり聞き、職 員の思いも伝え、全職員で共有し、ともに 支えていける信頼関係が築けている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問時は、コロナ感染症の状況により、デッキでの短時間の面会を協力して頂いている。また、馴染みの場所や、お墓参りなど希望に応じた支援を行っている。	日々の生活で昔話をさせていただき、ご利用者個々の生活歴を理解するように努めており、アーケードの馴染みの店舗や馴染みのお寺等にお連れしている。自宅に家族と外出して手料理を食べたり、馴染みの食堂に行かれる方もおられ、ご主人のお墓参り、親族の葬儀等に家族と出席された方もおられる。自宅を心配される方には自宅の玄関前で一緒に写真を撮り、居室に貼っている方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の度合いもさまざまであり、難聴の方もおられるので、職員が間に入り、お一人、お一人が孤立されず、支えあえるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、ご家族や担当者には情報を提示し、生活方法などの助言に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人、お一人の希望や意見に沿えるよう全職員で思いや意向を共有し、要望に沿えるよう努めている。	アセスメント用紙を活用し、ご本人と家族に生活歴、趣味、好きな食べ物などを伺っている。表情や行動、しぐさなども観察しており、「手作りの料理が美味しく、お風呂に入れてくださし、ここがいい」等の思いを伺っている。「甘いものが食べたい」「自宅に行きたい」「お墓参りに行きたい」等の要望もあり、家族と相談しながら叶えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にお尋ねしたり、基本情報や生活歴より、馴染みの暮らし方を把握し、施設でもこれまでの暮らしを維持できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人、お一人の毎日の健康チェック、表情・食欲の有無や排便の有無又、朝礼時の申し送り、状態を把握し無理なく過ごして頂けるよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活の中で気づきや課題などについて、毎月の職員会議で話し合い、ご家族の意見を参考にして、現状に適した介護計画を作成している。	ご本人や家族の意向とともに、職員全員の意見を反映するように努めている。アセスメントは健康状態・精神状態・理解・行動力・羞恥心・記憶等・ADL・IADL・生活の質等を評価し、アセスメント要約表に「計画必要性度」を含めて記載している。精神状態に関してもご本人の思いなどを記載し、ケア内容に繋げている。歌、体操、歩行訓練等も行われ、洗濯物のしわ伸ばしや干し方を教えて下さる方もおられ、日々の役割を計画に盛り込んでいる。24時間の日課表に各活動の「できること」「留意点」も増やし、介護日誌の“キーワード”欄に計画内容を転記し、実践状況を記録している。	①アセスメントの【項目3立ち上がり・移動動作等】のADLを更に細分化するとともに、「寝返り」「立位」「歩行」「移乗」等の詳細な能力を増やし、日々のリハビリ等に活かしていく予定である。 ②アセスメント及び要約表に介助理由とケア内容、心理・行動障害の原因とケア内容、各活動のご本人の要望、医師や看護師の意見等を追記するとともに、介護計画に日々のケア内容を追記していく予定である。 ③介護計画の2表に「本人」「家族」等の役割を増やし、家族と一緒に計画の話し合いを行っていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況や、体調の変化や気づきなどを詳細に記録し全職員が情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や、理容師の利用やその時のニーズに対応するため管理者が代表に相談しながら柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣公園まで散歩し道中で出会った地域の方と挨拶を交わしたり、外庭のジュースボックスの空き缶を整理し、清掃活動を行い地域の一員としての活動を支援した。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、今までかかりつけ医にお願いしている。かかりつけ医を持たない方には当該施設の協力医にお願いして、いつでも適切な医療を受けられるよう支援している。	職員の観察力もあり、早期発見に繋がっている。24時間体制で管理者、系列の看護師、代表、主治医等に相談でき、指示を受けることができ、夜中も往診していただく。必要時に歯科医師の往診もあり、法人の看護師から適宜指示を受ける事ができ、家族との情報共有（毎月の手紙や電話）も続けている。主治医の指示のもと、日々職員が目薬や内服等の管理を徹底し、次第に元気になれる方もおられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康チェックで異常があれば法人の看護師に相談し、指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、介護情報提供書を作成し、情報交換を行っている。また退院時もDrや看護師からの情報を全職員で共有し関係づくりに努め利用者を支えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に看取り支援の説明は行っている。看取り希望の方や、重度化の恐れのある場合はご家族、主治医、管理者で十分で話し合いを行い、希望に添えるよう支援に取り組んでいる。	ほとんどの方が「最期までここで」と希望されており、体調変化に応じて家族との話し合いを続けている。主治医が長年のかかりつけ医であり、24時間体制で訪問していただく。急変時は管理者や法人内の看護師も駆けつけており、訪問看護も利用できる。必要時に医療機関の看護師が点滴してくださり、家族と一緒に誠心誠意のケアが行われている。管理者は、ご本人と家族、職員の安心を一番に寄り添いを続けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修で急変時や事故発生時の対応を学んだり、応急手当での訓練を行い、慌てず、対応できるよう実践力を身に付けている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年6回、風水害、防災訓練を実施している。又、消防署や地域の消防団にも協力参加いただいたり、地域の防災訓練にも参加し、協力体制を築いている。火事や事故を起こさないよう全職員が意識し管理している。	防災委員がBCP（事業継続計画）を作成し、研修を実施している。夜間想定で自主訓練（年6回）を行い、年2回は消防団・消防署・地域の方と4棟合同の避難訓練をしている。各棟の代表（男性職員）が災害対策を毎月検討し、地域の避難訓練にも参加している。防災頭巾、水、食料、災害バックや独自の持ち出し品、災害時に受け入れる系列事業所の利用者情報シート、個人情報一覧を準備し、避難してこられた方用の寝具も2組準備している。夜勤者が防火自主点検チェックを続けている。普賢岳の噴火も経験しており、地域の結束は強固な状況が続いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全利用者様を尊重し、声掛けや言葉かけなど、ゆっくりと丁寧に行い、態度には十分注意して、誇りや自尊心を気付け付けないように支援している。	トイレ誘導時や介助時、入浴時等の声かけに配慮している。羞恥心に配慮し、脱衣時にはタオルをかけて対応している。ご本人の心身・認知状況から1人でも排泄が大丈夫な方は職員が外で待機する場合もある。ご利用者の自慢話等に相槌を打ち、ご本人が優越感を感じる声かけを行い、ご利用者個々を主役にできるように努めている。島原の優しい方言を使い、声の強弱やトーン、話す早さに注意し、個人情報管理も徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない談話の中での表情や軽作業などからも自己決定したり、自己決定を見出せる場面のセッティングを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務より、利用者様を優先を常に心がけ、お一人お一人の体調をしっかりと把握し、体調を考慮しながら希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や髪型など、利用者の好みを尊重し、その方らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。又、母の日や敬老の日には、お化粧やマニキュアを塗っておしゃれを支援している。		

自己	外部		自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月8回の料理教室を行い、全員の方に参加して頂き担当を持って頂き、一緒に食事作りを行い、作って食べる喜びを感じて頂いている。又メニューもお尋ねして、希望に伝えるよう努めている。	調理専門の方が3食手作りしており、調理の方が休みの日は皆さんで「料理教室（月8回）」をしている。1日・15日は赤飯が恒例で、畑の野菜も使用した旬の食事が作られている。恵方巻作り、餅つき、干し柿作りとともに、ご利用者がゴマをすり、手作りのごま豆腐も好評で、各種行事にはバイキングを行い、夏のそうめん流しも楽しまれている。ご利用者も包丁で皮むきし、盛り付け、下膳、食器拭き等をしていただき、デッキで昼食をする機会も作られている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みは、把握している。利用者様の状態もそれぞれなので状態に応じた形態を提供し、栄養が十分に取れるよう努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者それぞれの力に応じた支援を毎食後に行い、口腔内の清潔保持に努めている。又、液体歯磨きを使用し、舌の汚れや臭いが生じないよう支援している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、早め、早めのトイレ誘導を行っている。又、夜間は、ポータブルトイレの使用やトイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。	下着を着用し、トイレで自立している方も複数おられ、職員は清拭タオルを準備し、さりげなく見守りしている。排泄パターンを把握し、早めにトイレ誘導を行う事でパッドの使用枚数が減り、リハビリパンツから下着に変更できた方もおられる。排泄後は温かいタオルで清拭したり、陰部洗浄している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食材や果実、乳製品を取って頂いている。又、体操や運動に参加して頂き、便秘の予防に取り組んでいる。			

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の利用者の体調を見ながら支援している。又、午前午後希望によりいつでも入浴ができるよう柔軟の対応している。	浴室は手すりも多く、滑り止めの床になっている。入浴好きな方が多く、時間帯や湯温等の希望に応じている。湯船に浸かって職員と会話し、菖蒲湯や柚子湯等も楽しまれている。体調に応じて2人介助も行われ、脱衣時はタオルやバスタオルをかけて対応している。浴室の中では見守りを十分に行い、ゆっくりと安心して入浴を楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣や体調により、横になって休んで頂いたり、寝具類は定期的に日光に干しカバー類は洗濯を行い室温調節にも気を付け安心して頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用される薬の目的や副作用、要領については薬の説明書で理解している又服薬変更がある場合は申し送り長に記録し確認している。誤薬させないよう再度、確認重視している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴により小物づくり、編み物食材切り、縫物、出納帳付け、花や野菜の手入れなど個々の力を活かした支援を行い役割や楽しみが持てるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブに出かけて季節の花や風景を見物して頂き、季節を感じていただいている、また、近隣公園への散歩や他棟などと情報集めなどして場所の共有をし外出支援に努めている。	日々の生活の中で“靴を履いて歩く”ことを大切にされており、日々の散歩や畑での野菜の収穫をするとともに、週2～3回、ご利用者と湧き水を汲みに行き、七福神にお参りしている。海や山、棚田のドライブ、季節の花見（アジサイ、桜等）、島原市内のイルミネーション見学、八幡神社の初詣、系列の子どもデイとの交流も行われており、買物にお連れして、食材と一緒に購入している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭管理は行っていないが初詣では利用者様が自ら費銭をあげお参りされる。又、お金の心配される利用者にはご家族が預かっていると丁寧に声掛けをこなしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいという方はおられないが希望されるようなら電話出来るようにしている。又、便せんや封筒を準備して対応をいつでもできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	教養の空間は整理整頓を心掛け季節の花や、利用者様の作品を飾っている。又、換気も行って感染症対策をおこなっている。外庭に季節の花を植え、季節感を取り入れている。	リビングと台所が一体化し、風通しも良く、トイレのドアや障子の開閉は騒音にならないようにしている。外にはデッキもあり、日向ぼっこもでき、思い思いの場所で過ごされている。玄関の階段で昇降訓練をされたり、玄関からの長い廊下で歩行訓練をされる方もおられる。ご利用者が庭で摘んだ花をリビングの神棚に飾って下さり、水の取り換えもして下さる。系列施設で生け花会が毎月あり、ホームに飾っている。換気や掃除も適宜行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者お一人お一人が思い思いに浸って頂けるようにデッキには長椅子やテーブルを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されたものを自由に持ち込まれるようにしている、本人様の製作品やご家族の写真を飾り居心地よくして頂いている。	居間はベッドの布団を押し入れに収納しており、自分で布団を畳める方もおられる。居寝の時などは再度布団を敷かれている。自宅から遺影、神棚を持ち込まれている方もおられ、手を合わせている。机、数珠、眼鏡、編み棒、バックナンプレ問題集、筆箱、大学ノート、ボールペン、湯呑、鳴き声を出す猫のぬいぐるみなどを持ち込まれている。居室のテレビで相撲を見る方、ラジオを聞かれる方、日記を書かれる方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	トイレ洗面所、浴室など大きな字で表示しているまた、各所には手すりを設置し自立した生活を送れるようにしている。		